

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで

聖火を新国立競技場へ-9



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」に八柳修之さんの「バーチャルウォーク（国内版）沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース（仮想）1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ（4日間で120km）を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、現在は8～10km程度の散歩まで可能に回復しましたが、歩けない時は例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明がこのバーチャルウォークの提案でした。バーチャルウォークはリハビリの散歩の距離を累計しバーチャルコースのゴールに向かう、すぐろくのようなもので「ゴールするまでは健康でいなければ」との目標を持つ、前向きな気持ちにさせる取り組みです。

先の長いゴールまで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**（ウォーキングの隠語で交通機関を利用）聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れて通過した県の思い出や、映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナと、どんな恋をしていたのかをお話したいと思います。

2018年10月1日沖縄県最北端の辺戸岬を出発した聖火は那覇市から鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県、山口県を経て広島県に入りました。2019年4月24日、スタートから800kmの地点（全行程の47.4%）に到着しました。

〔広島県尾道市～岡山県倉敷市〕

801km～900km



写真上左は尾道千光公園からの眺め、写真上右は倉敷美観地区です。今後は山陽道（西国街道）を現在の尾道市、福山市、井原市、倉敷市を歩きます。

寅次郎の広島県へのウォーキング訪問は2004年9月「第1回尾道・

文学歴史浪漫ウォーク」(1日ウォーク)参加で尾道に来ています。尾道を愛した多くの歌人・文人の碑が立ち並ぶ文学の小道や石畳の坂道が案内表示となっている古寺めぐりコースを台風一過の秋晴れの中を歩きました。きんもくせいの香りの古い町並み、細い路地、続く坂道の風景はTVや映画では見ていましたが、どこか懐かしく時間が止まったような安らぎの雰囲気を感じました。町の角から映画の寅さんやマドンナが出て来そうな雰囲気でした。瀬戸内ラーメン、瀬戸内の魚(おこぜの唐揚げ、たこ天、あなご丼)は期待どおりでした。

翌日からは「第4回瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチ」に参加しました。尾道から瀬戸内海の多島美と先端技術の粋を集めた長大橋群が織りなす新しい海の海道「瀬戸内しまなみ海道」(写真右)を愛媛県今治のゴールまで80kmを3日間で歩くスリーデーウォークです。



1日40kmを歩くツデーコースもありました。

大会第一日目の尾道駅前～向島～因島～生口島までは広島県尾道市です。尾道駅前から向島への尾道大橋は交通事情で歩けず、渡船(60円)で本州側をスタート、最初の因島大橋が見えますが、橋に上るまでが長いです。この橋は2階建て構造で歩行者は1階を歩きました。因島は村上水軍発祥の地と花の香りの島(除虫菊で有名)。造船所があるためか、パブの看板が目につきました。段々畑には青いみかんが鈴なり、給水ポイントではみかんやレモンのサービス。青いみかんは甘かったです。生口橋を渡りゴール。ここは文化勲章受章の日本画家平山郁夫の故郷で立派な美術館がありました。又、実業家の耕三寺耕三の故郷で、耕三寺耕三は溶接工から大阪で鋼管製造所を創業、特許・実用新案を取得した技術力は高い評価を受けていたと知りました。母親の供養で建立した耕三寺や同美術館があり、島ごと美術館でした。

ゴール近くで思わぬ人との出会いがありました。この出会いの詳細は後日にお話しします。もう一つ、うれしい出来事がありました。

翌日のコースで生口島から大三島に架かる世界一の斜張橋の多々羅

大橋の写真(写真下左)を撮り、大会写真コンテストに応募したら入選しました。結果は翌年の第5回大会誌で発表され、寅次郎の写真は大会誌の裏表紙の写真(写真下右)に使われていました。賞品はしまなみ海道が描かれた今治名産の大きなバスタオルでした。



寅次郎、瀬戸内の味が恋しくなった時はJR新橋駅銀座口近くの「せとうち旬彩館」香川・愛媛のアンテナショップ&レストランへ行きます。

写真下右は鯛めしとミニうどん 880円です。鯛のあらの出汁と昆布出汁、焼いた天然真鯛で味をつけ土鍋で焚いたふっくらご飯と讃岐うどんで1日50食限定です。ショップではジャコ天をお土産に買います。



映画の寅さんも1983年12月公開の第32作「男はつらいよ 口笛を吹く寅次郎」で岡山県備中高梁から広島県尾道市の因島へ来ています。尾道は映画の最後のシーンで寅さんは尾道から因島に架かる尾道大橋の工事の作業をしている旅で出会った男の幸せそうな一家に出会い幕です。この話で尾道に来るまでの間、備中高梁のお寺の娘さんに

一目ぼれして坊主修行に励む、おかしな寅さんの話は岡山県のところで詳しくお話しします。

尾道から四国の今治まで橋でつながる完成後の「しまなみ海道」を見たら寅さん、どんな反応をしたか興味深いです。「飛行機は鉄の塊で落ちるから乗らない」と言っていた映画の寅さんですから、あんな高い所に架かる大橋を歩くのは避けたと推察します。

900 Km地点に到着したら、次の岡山県後楽園から兵庫県赤穂市までのコースを紹介します。途中経過は「寅さん歩」の中でお知らせします。

今回は 江戸・東京の祭-62(花の祭-12)です。

平野 寅次郎 拝